

改訂版

授業づくりの教科書

社会科

授業の教科書

3・4
年

有田先生が見通していた 新しい社会科の授業づくり

佐藤 正寿

1 有田先生が実践していた「主体的・対話的で深い学び」

1988年の2月の筑波大学附属小学校の公開研修会。

当時大人気の有田先生の授業には、全国から数百名の参加者が集まっていた。特別に設けられた会場では有田先生の授業への期待感のエネルギーが満ち溢れていた。

公開されたのは、3年生の「町のうつりかわり」の授業である。

授業開始から、子どもたちの熱気ある発言に圧倒される。

「ぼくが考えたのは…」

「先生、それは違うと思います！」

有田先生が問いを発するたびに、子どもたちが調べてきたことをもとに次々と考えを発表する。友だちの意見を聞くと、今度はそれに対して自説を主張する。有田先生は、子どもたちの発言をうなずいたり、驚いたりしながら受け止めつつ、ゆさぶり発問を行う。子どもたちの思考はさらに活性化し、発言内容がどんどんと深まってくるのが、理解できた。

若手教師だった私は、この授業に衝撃を受けた。「どのようにしたら、あれほど追究する子たちが育つのだろう」、「どのようにしたら子どもたちが深く考える授業ができるだろう」…私だけではなく、多くの参観者も同じことを感じたと推測する。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）総則編」において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行うことが示された。その趣旨を読むと、この学習指導要領よりも30年近く前に、有田先生が「主体的・対話的で深い学び」のモデルとなるような授業をすでに実践されていたことに驚く。その点では、有田実践を知ることは、新しい学習指

導要領で求められている授業を実現するためのヒントになると考える。

2 「主体的な学び」の前提となるもの

(1) 「追究の鬼」は「主体的な学び」の実現の姿

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編」では、主体的な学びの実現のために、子どもたちが学習問題を見だし解決のために見通しをもつことの大切さが示されている。また、学習したことを振り返って新たな問いを見つけたり、学んだことを自分の生活や社会のために生かしたりすることの必要さも示されている。

有田先生は子どもたちを「追究の鬼」に育てた。子どもたち一人一人が強い問題意識をもち、自分なりの調べ方を身に付けて全力で問題を追究する。そして、追究した内容を豊かな表現で伝えるだけではなく、さらに新たな問いを追究するエネルギーを子どもたちはもっていた。その姿は先に示した「主体的な学び」が実現している子どもたちそのものである。

(2) 魅力的な教材が前提

その前提となるのは、子どもたちが関心をもつ魅力的な教材の数々である。「材料七分腕三分」という有田先生のキーワードのとおり、授業でどのような教材をもってくるかで授業の7割は決まるのである。本書にも、次のような教材が示されている。

- 店の学習で、コンビニエンスストアの店内のレイアウトの図を示して、そのひみつを発見させる。子どもたちは意図的に商品が配列されている理由を必死になって考える。
- ごみの学習で、「君たちのうちでは、毎日ごみを買っているよ。」とゆさぶり、食材のごみになる割合を示した資料を提示する。あさり貝の85%、枝豆・そら豆の80%がごみになることを子どもた

ちは知って、子どもたちはごみについて一気に関心を示す。

- 水の学習で、「東京に水道ができたのは、次のどれでしょう。」と4つの選択肢から一つ選ばせる。多くの子どもたちは明治時代や昭和時代と答えるが、「江戸時代のはじめ（正確には江戸以前）」と聞いて、子どもたちは驚く。

どれも子どもたちの考えがゆさぶられる教材であり、自分でもコンビニエンスストアに実際に見学に行きたいという子や、食材のごみの割合や水道の歴史を調べてみたいと思う子が続出するに違いない。子どもたちが授業の導入で問題意識を強くもつ一例である。

子どもたちに主体的な学びをさせるためには、子どもたちが学習対象に関心をもち、調べたい学習問題を自ら発見することがスタートとなる。そのためにも、魅力的な教材を教師が準備することは不可欠である。十分な問題意識や学習意欲を育てないうちに、「この学習問題を今日は学んでいきましょう」と教師が押し付けても、子どもたちの学びは高まらないのである。

(3) 布石を打つことの重要性

有田先生の実践のキーワードの一つに「授業づくりは布石の連続」がある。1単位時間の授業はもちろん、1単元の授業においても布石を打つことで、子どもたちの意欲は変わる。

有田先生の担任時代の実践に「くらしの中のごみと水」（4年）がある。学習に入る前に、清掃の時にごみを袋に入れ、日付を入れて毎日ためておく。それを一週間続けていくと、子どもたちから「何にするの?」「先生、教えて?」と言われるようになる。

これは事前の布石の例である。教室のごみを集めておいて、いきなり授業で見せるよりも、学習の対象となる実物をさり気なく教室に置いて、子どもたちに意識化させておく。関心の高い子どもたちは、各曜日のごみの違いについて気づくはずである。それは、実際のごみの学習に生か

される。

実際にこの学習では、翌週ごみの分析を行っている。「何曜日にごみが多いか」「何曜日に、どんなごみが出ているか」「どんな種類のごみがあるか」等について予想を立てさせてから、実際に調べている。子どもたちが夢中になってごみ調べを行ったことは想像に難くない。

3 どのような授業づくりを行うか

(1) 基本は問題解決的な学習

主体的な学びの実現のためには、子どもたちが学習問題を発見し、解決のために見通しをもって取り組むことが大切である。いわゆる「問題解決的な学習」への取り組みである。

問題解決的な学習とは、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」においては、「単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習」と定義づけられている。

以下の①～④の学習過程がこの定義を整理したものである。また、それぞれの過程を充実させる教師の働きかけをその下に記してみた。

● 1つの単元について

①問題を設定する

- ・子どもたちが強い問題意識をもつしかけをする
- ・単元の目標との関係に留意しつつ、子どもたちの表現を生かした問題文にする
- ・問題に対して予想をさせ、予想に基づいて問題を解決する方法を見通させる

②問題解決のための調べ活動を行う

- ・ 問題解決に適した情報収集活動に取り組みさせる
 - ・ 各活動に応じた学習技能を高める指導を行う
- ③問題について考察したり，選択・判断したりする
- ・ 情報を整理・分析させ，問題を解決するための考えをもたせるようにする
 - ・ 子どもたちの学びを深めるための工夫をする
- ④社会への理解と関心が高まる（学びのまとめと発展）
- ・ 自分たちの学びをまとめ，振り返る場面を設定する
 - ・ 学びを発展させ，生活を改めたり，社会に参画したりする意欲を育てる

このような問題解決的な学習は，社会科の授業で以前から行われてきた。しかしながら，学習過程の方法は似ていても浅い調べ活動や思考活動になっていたり，教師が学習活動を強くコントロールしすぎて，子どもたちはその発問や指示の通り学習するだけになっていたりといった課題も見られた。それらは，「主体的・対話的で深い学び」とは異なるものである。それでは，どのような授業づくりを志向していけばよいのだろうか。

(2) すぐれた発問が対話的な学びを深める

「主体的・対話的で深い学び」の中で，「対話的な学び」はイメージしやすい。たとえば，学級の中で問題解決のために話し合いや討論をしたり，友だちと協力しながら調査したりする活動である。また，地域の人々にインタビューしたり，実社会で働く人から話を聞いたりすることも対話的な学びである。さらに，振り返りで自分の学びを確かめたりすることも自分自身との対話といえる。すなわち，先の学習過程では，③の「問題について考察したり，選択・判断したりする」における話し合い活動だけではなく，どの学習過程においても対話的な学びの場面が考えられるのである。

このうち社会科の授業において多く見られるのは、話し合い活動である。「学習内容についての新たな理解を深める」、「他者の考えから知見を得る」、「新たな学習の展開を促す」等、話し合い活動の意義は数多い。しかし、実際の授業を参観すると、話し合い活動が単なる調べたことの発表のみに終始したり、考えは出すものの深まりに乏しかったりする場合がある。その原因の一つは、話し合い活動の焦点化が図られていないことにある。「何について話し合うのか」、「選択・判断すべき対象は何か」といったことが意識されていないければ、話し合い活動も低調になりがちである。

その点では、教師が話し合い活動で子どもたちに示す発問は重要である。教師の発問を工夫することで、子どもたちの思考が活性化される。

本書には、話し合い活動を活性化するための有田先生の発問が、そのままの文言で書かれている。たとえば、「ごみ処理は本当に無料なのか」では、次の5つの発問が書かれている。

- ①このごみは、誰がつくったのでしょうか。(教室のごみを見せる)
- ②学校のごみは、誰が処理しているのでしょうか。
- ③君たちの家のごみは、誰が処理しているのでしょうか。
- ④お母さんたちは、ごみを出すときに、お金を支払っていますか。
- ⑤ごみ処理は、本当に無料だろうか。

どの発問も、子どもたちの思考を促すものばかりである。①で、自分たちがごみを作っている当事者であることを自覚させ、②と③の発問では「そういえば誰だろう」と、子どもたちの知識があいまいな点をつく。そして④で「支払っていない」と発言することを前提に、⑤で「本当に無料か」とゆさぶる。「お金を出していないからやはり無料だ」「市でごみ処理をしているから有料だ」という話し合いがされるであろう。

このように発問やその構成を工夫することによって、話し合いの内容は焦点化され、活発な話し合い活動が可能となるのである。

(3) 学びを促す教師の指導技術

学びの質を高めるために、授業における教師の授業技術は不可欠である。たとえば、先の発問の技術の他に、板書やノート指導の技術、発言指導や机間指導というように、授業技術はいくつも存在する。ここに示したものは、どの教科においても必要とされる指導技術である。

社会科においては、資料提示の授業技術が存在する。たとえば、実物資料を準備した際にどのように提示するか。教師が子どもたちに追究させたい中心的な資料を提示する際にどのように見せるか。同じ資料であっても、その提示のしかたによって、子どもたちの反応は異なってくる。

有田先生は、本書で「グラフを提示するとき、最も大事なところ、どうしても見せたいところを、わざとぬいた資料をつくる」と述べている。これは、ICTによる資料提示でのマスキング（隠す）技術と同じ考え方である。隠れている部分に子どもたちは注目し、その内容を予想する。いわば、学習内容の焦点化である。最初からその部分が示されていて気づきを発表させるより、子どもたちの思考は活性化する。

このような授業技術は、子どもたちの学び方が変わっても不易の部分である。

4 子どもたちの学習技能の育て方

(1) どのような技能が必要か

「主体的・対話的で深い学び」において、育成すべき資質・能力として「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱が示された。このうち「知識・技能」は「社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能」として具体的に示されている。

有田先生は、追究の鬼を育てる過程で学習技能を身に付けることの重要性を指摘している。そのポイントとして、『有田学級で育つ学習技能』

(1991・明治図書)において次の4点を指摘している。

- ・「はてな？」発見の技能は、いつごろ、どのような場で、どのようにして育てていけばよいか。
- ・発見した「はてな？」を、どのように調べ、追究していくようにするか。
- ・「追究の鬼」にふさわしい表現力を育てるにはどのようにしたらよいか。
- ・学習技能を育てる授業はどうあるべきか。

今後育成すべき資質・能力として示された「調べまとめる技能」と同じ内容を30年近く前にすでに指摘している。その先見性には驚くばかりである。

(2) 学習技能を育てる授業

有田先生は「学習技能を育てる授業はどのようにあるべきか」という問いから、その具体例を提案している。

本書にも、「何に目をつけると町の広がりがわかるか?」「地図帳の使い方はどうしたらいいの?」「『地名』はどうやって調べればいいの?」といった学習技能を育てることを意図した内容がある。

そのうち、「地図帳の使い方はどうしたらいいの?」には、次のように地図帳の使い方の指導方法の基本がわかりやすく示されている。

- ある県の地図を示し、どこか問いかける(答えは新潟県)。「どこに目をつけて調べたらよいでしょう」とヒントを与え、目印となる佐渡島の存在に注目させる。子どもたちは「目のつけどころ」の必要性を自覚する。
- 地図の文字の色に注目させ、都道府県名や地名等では地図を見やすくするために色を分けて使っていることに気づかせる。しかも世界地図にまで広げている。

- 新潟県の4つの都市の地図記号の違いに気づかせ、地図記号から人口の規模や県庁所在地がわかることを教える。これによって、子どもたちは地図記号の違いを意識するようになる。
- 他の県庁所在地を探させ、県名と県庁所在地が同じ県と違う県があることに気づかせる。

ここの指導で特徴的なのは、「どこに目をつけて調べたらよいでしょう」という調べ方に関わる発問を出している点である。「何を使って調べますか」「その根拠は教科書のどこに書かれていますか」「まとめ方で気をつける点は何ですか」といった学習技能に関わる発問が、授業の中で教師から投げかけられることで、子どもたちは「このように調べればいいんだ」「注目する点は資料のここだ」というように、その学習技能を自覚するようになる。

(3) 見方・考え方を働かせるために必要な学習技能の向上

新学習指導要領の社会科の目標には「社会的な見方・考え方を働かせ」が、各学年の目標には「社会的な見方・考え方を働かせ」という文言が入った。この場合の「社会的な見方・考え方」とは「視点や方法（考え方）」であり、「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、「視点や方法（考え方）」を用いた学び方を表すと共に、子どもたちの「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことも表現している。

「視点や方法」は自然に身に付くものではない。教師が意図的に学習技能を鍛えないと力はつかない。たとえば、資料の読み取り方や情報の分類の仕方、適切に考えを表現する方法などを、繰り返し行って習熟することが必要である。その過程で学習技能の質が向上することで見方・考え方をより適切に働かせることができるようになり、深い学びにつながるのである。

5 より「深い学び」にするために

(1) ノートに自分の考えをまとめることを重視する

1 単元や 1 単位時間の終末は、学習をまとめ、振り返る場面である。学習問題に対するわかったことを表現したり、その発表から学び合ったりする。また、学習を振り返って、できるようになったことを自己評価し、学びの達成感を味わう場面でもある。ここで大事なことは、この場面の時間を確保することである。単元レベルで考えるのであればまとめの表現活動の時間を設定することであり、1 単位時間であれば終わりの数分間を計画の中に入れておくことである。

有田先生の授業（1 単位時間）の終末は、まとめのノートの時間であった。5 分間を確保していたという。そこで必ず書くべきことは、以下の 3 つであった。

- ① 本時で学習した内容の整理
- ② ▲印などをつけて、本時の学習に対する自分の考え（感想・疑問・反論など）を書く
- ③ 新しく発生した問題

特徴的なのは、②と③である。授業参観で学習の感想を書かせる場面を見ることがあるが、「～がわかってよかった」「こんどは～をがんばりたい」といったものが多く、「本時の学習に対する考え」にまで至っている例はきわめて少ないのではないだろうか。ここで自分の考えをきちんと書かせることで、自分なりの新たな「見方・考え方」ができ、学びが深まったことを子どもたちは自覚する。それは、次の学習で生かされることになるであろう。また、「新しく発生した問題」は自分が今後追究すべき対象となる。新たな問題を発見することによって、子どもたちの追究のエネルギーは持続する。

(2) オープンエンドで学びを広げる

先のノート指導に表れているように、有田先生は授業の終末に新たな問題を引き出し、その追究のための意欲を高めることに力を入れた。子どもたちは、次の授業まで新たな追究活動に取り組み、それが新たな学習で生かされる。いわゆる授業のオープンエンド化である。一般的な授業では学習問題に対するまとめを確認して終わるのと対照的である。

このような授業のオープンエンド化は、追究活動を常に積み重ねることになり、結果的により深い学びに結びつく。それだけではなく、子どもたちが主体的に学び続ける資質・能力を育てるベースとなるのである。

以上、有田先生の実践と主体的な学びの実現との関係を考察してきた。改めて感じるのは、その実践の意図するところが新学習指導要領の目指すところと重なっているという点である。「有田先生の数々の主張に時代が追いついた」といえよう。

本書にはその主張のエキスが詰まっている。1時間1時間の授業プランを新学習指導要領の授業づくりの教科書として学んでいきたい。

○参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）総則編」
- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編」
- ・有田和正（1985）『学級づくりと社会科授業の改造中学年』（明治図書）
- ・有田和正（1991）『有田学級で育つ学習技能』（明治図書）
- ・有田和正（1996）『新ノート指導の技術』（明治図書）
- ・有田和正・教材・授業開発研究所（2014）『今こそ社会科の学力をつける授業を』（さくら社）

I この本の基本的な考え方

新しい授業の創り方

- ① 授業とは何か 18
- ② おもしろい社会科授業を創る9つのポイント 21
- ③ 1時間で学力をつけるために 24

この本の使い方 28

II 3年生の授業

わたしたちの市

- 1 電柱に「戸籍」があるって本当？ 30
- 2 通りにはどんな違いがあるか？ 32
- 3 弁当屋から街の違いが見えるか？ 34
- 4 地図はばらしてつくる！ 37
- 5 「地図記号」はどうやってできたの？ 40

生産や販売のしごと

- 6 日本にどんなくだものが来ているか？ 44
- 7 みかんづくりのさかんな所はどこか？ 48
- 8 みかんを山の斜面につくるわけは？ 51
- 9 寒天とトコロテンはどう違うか？ 53
- 10 かまぼこ工場はどうして海岸にあるのか？ 55
- 11 コンビニが全国に広まったヒミツとパワーは何？ 57

- 12 よく売れる商品 3000 アイテムのヒミツは？ 60
- 13 スーパーマーケットの売り方の工夫とは？ 63
- 14 デパートの売り場には決まりがあるのか？ 65
- 15 デパートの売り場を横にしたら？ 67
- 16 デパートと商店街はどちらが危険か？ 69
- 17 大売出しや福引をするのは何のため？ 71
- 18 門前町はどうしてできたのか？ 73

火事を防ぐ

- 19 「消火器 1 本」からわかることは？ 76
- 20 ビルの赤い▼マークは何の印？ 80
- 21 消防官は、どんな仕事をしているの？ 82

くらしを守る

- 22 警察官は、どんな仕事をしているの？ 84
- 23 海上保安官は、海の警察官なの？ 86

Ⅲ 4年生の授業

地図を楽しむ

- 1 地図帳の使い方はどうしたらいいの？ 90
- 2 「地名」はどうやって調べればいいの？ 94
- 3 県庁所在地の決め方は？ 96
- 4 「等高線」はどうやって決めているの？ 98
- 5 この地図、どこがおかしいの？ 100

くらしとごみ

- 6 あなたはごみを買っている？ 102

- 7 ごみ処理は本当に無料なのか？ 104
- 8 「ごみ箱」はどのように変わったか？ 106
- 9 「夢の島」とはどんな島？ 110
- 10 ごみのリサイクルをどう増やすか？ 112

くらしと水

- 11 水道の水は自然のものか、つくられたものか？ 115
- 12 1人あたりの水の使用量が増えたわけは？ 117
- 13 S君の家はいつ頃から水道を使い始めたか？ 119
- 14 「水道」はいつ頃できたのだろうか？ 121
- 15 ペットボトルの水がよく売れるわけは？ 123

くらしと下水道

- 16 「下水道」はどうしてできたのか？ 125
- 17 「下水の風呂場」って何？ 127
- 18 下水道100%の所にくみ取り便所があるか？ 129
- 19 下水道には何を流してもよいのか？ 131
- 20 「下水」にはどんな使いみちがあるか？ 133
- 21 「便所」は昔からあったのか？ 135

昔のくらしと道具

- 22 「いろり」というのは何に使ったの？ 137
- 23 「ごはん」はどうやって炊いたの？ 140
- 24 洗濯はどのようにしていたの？ 143

郷土の歴史

- 25 「^{くだ}下らないもの」とはどんなもの？ 146
- 26 江戸の町に「^か河岸」が200個以上もあったのはなぜか？ 148
- 27 この土地、どう変わったの？ 152

- 28 何に目をつけると町の広がりがわかるか？ 154
29 ランプ1つで「昔の暮らし」を考えさせる 158

わたしたちの県の特徴

- 30 水の足りない水郷・柳川市 (1) 160
31 水の足りない水郷・柳川市 (2) 164
32 東京は「洪水」の宝庫？ 166
33 東京の夏は「熱帯」の仲間入り？ 168
34 多摩川を汚した犯人は誰か？ 170
35 多摩川より大きな川が地下にあるって本当？ 172
36 雨が多いのに水不足になるのはどうして？ 174
37 輪島漆器はどんな順序でつくるの？ 176
38 わたしの住んでいる町、いい町だ！ 178
39 東京タワーがあるのに、どうしてスカイツリーが必要なのか？ 182
40 重要文化財と国宝はどう違うの？ 186
41 金刀比羅さんから琴平町のつくりがわかるか？ 188
42 水族館は街の開発になるか？ 190
43 京都の漬物はなぜおいしいのか？ 192

引用・参考文献・情報 196

◎本書は『授業がおもしろくなる 21 授業のネタ 有田社会・中学年』（日本書籍 1999年）
をもとに、全編にわたり再構成・再編集したものです（2012年初版、2020年改訂）。

イラスト・図版：しらみずさだこ

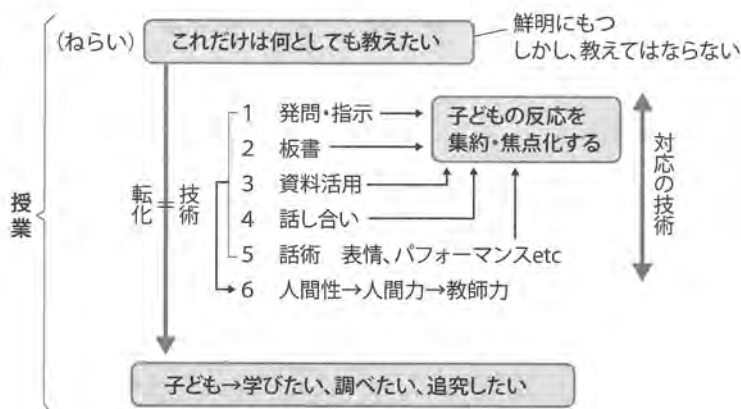
I

この本の 基本的な考え方

新しい授業の創り方
この本の使い方

新しい授業の創り方

1 授業とは何か



(1) 授業で最も大切なこと

授業は、「これだけは何としても教えたい」という内容を、深く広い教材研究によって「鮮明につかむこと」、これが第一である。これさえ確かにつかめば、授業は70%成功したも同然である。

このとき大事なことは、「教えてはならない」ということである。子どもに学ばせなければ学力にならないからである。

それで、「これだけは何としても教えたい」という内容を、「子どもが学びたい、調べたい、追究したい」というものに転化するのである。これが授業の本質である。

「転化」するには、最小限6つの技術が必要である（上図参照）。

この6つの技術は、教材（ネタ）から授業の流れを示したそれぞれの項で具体的に明らかにしているので、各項目をていねいに読んでいただきたい。

（2）授業は勝負である

授業は勝負である。教師と子どもの真剣勝負である。

授業の計画をたてる時、「何で子どもと勝負するか」と頭を悩ます。

「勝負する」ということは、これによって、子どもに知識を教えたり思考を飛躍的に発展させたり、視野を大きく開いたりすることである。

一人ひとりの子どもが、確かに問題を持ち、予想をたて、追究の方向が見え、問題追究に熱中するようになったとき、勝負が成立したといえる。

そして、追究の途中で、子どもの考えを大きくゆさぶり、目を開かせ、より確かな統一性のある考えに発展させることができれば、より確かに勝負が成立したといえる。

（3）勝負は授業前にきまる

勝負を成立させるためには、

- ①子どもが、今どんな考えや能力をもって授業に臨もうとしているか、どんな知識や経験をもっているのかつかむこと。
 - ②子どもの考えに対して、どんな教材（ネタ）をぶつければよいかつかむこと。
 - ③ネタをぶつける時、どんな発問や指示をすればよいか考えること。
- 最低限、この3つのことが必要である。

ユニークな、子どもがおもしろがる授業をするには、よい教材（ネタ）を提示することが一番のポイントである。

ネタには、子どもの思考のすじ道をふまえ、しかも、本質に迫っていく契機が含まれていることが必要である。なんとしても、子どもがネタにひっかかるようにしなければならない。ひっかかって、追究していく過程で、より本質に迫っていくような内容を含んでいなければならない。

つまり、おもしろいだけではダメで、内容に深さと発展性がなければならぬ。

こういうよいネタをたくさんストックしておいて、子どもの状況に応じて自由自在に勝負してもらいたい——という考えで、本書をつくることにしたのである。

つまり、子どもが意欲的に追究する授業づくりをするために、よいネタをまとめて提示してみようと考えたのである。

ネタは、おもしろいだけでなく、奥深さ・発展性・関連性があり、授業を次々と深化発展させるものを提示している。

さらに、本書をそのまま教室にもち込んで、授業にすぐ役立てることもできる。ネタと主要な発問、展開順、子どもの反応を、見開きにまとめているからである。この中からよいものを選んで授業に取り入れてほしい。

しかし、私の真のねらいは、授業にすぐ役に立てることではなく、本書をもとにして、多くの方々が「ネタ開発」をめざすようになることなのである。ネタ開発をすることによって、教師としての力量を高めてほしいのである。

(4) 授業のつくり方を変えよう

子どもたちは、おもしろいこと、楽しいことが好きである。

授業でも、少しおもしろいと身をのり出してくるが、おもしろくないとソッポをむく。子どもたちに、社会科の力をつける近道は「社会科の勉強はおもしろい」と思わせることである。

このためには、なんととっても、おもしろいネタをみつけて、授業にもちこまなければならない。なぜなら、ネタのよしあしが、授業の死命を制するからである。

これが「材料七分に腕三分」といわれるゆえんである。

材料が悪ければ、どうにもならない。くさった魚は、どんな上手な料理人でも、料理のしようがない。逆に、材料さえよければ、腕は少々悪

くても、なんとか食べられる料理になる。

これは、授業でもまったく同じことである。

これまで授業を計画するとき、「目標→内容→方法」という順序で考えてきた。これが、オーソドックスな手順だと考えられてきた。

この思考パターンをくずさないと、おもしろい授業は創造できない。

立派な目標を考える前に、どんなネタで勝負するか考えるようにしたい。まず、おもしろいネタ、子どもをゆさぶれるネタを考えよう。ネタが決まれば、目標も、そして、資料や展開順・方法も自然に決まってくる。

「授業のネタを開発する」ということは、結局、ネタ（教材）と目標と方法を考えることに、自然に発展するということである。

本書を契機にして、「ネタ開発」に取り組むようになってほしい。

2 おもしろい社会科授業を創る9つのポイント

おもしろい社会科授業のために「授業のネタ」を創るには、いくつか考えておくといふことがある。それを挙げてみよう。

①「子どもの常識（固定観念）をくつがえすもの」を考える

子どもが考えていることを、ゆさぶったり、ひっくり返したりするようなネタを準備して、提示のしかたを少し工夫すれば、子どもは意欲的に動き出す。子どもは、なんでも食いはない。ゆさぶられたものやひっくり返されたものを「おもしろい」と思い追究する。

子どもの固定観念をくつがえすネタをつくるには、子どもが今どんな考えをもっているかをつかむことがポイントになる。

例えば、根室市の生活に冷蔵庫が必要かとたずねると、「必要ない。寒いから。冷蔵庫より気温が低いから」などという。ところが、根室では、物が凍らないようにするために冷蔵庫が必要だとわかると、びっくりして家のつくりなどを調べはじめる。

世界一の豪雪地域が日本であることや、雪国が日本の国土の53.3%もあることに固定観念をくつがえされる。

②「わかっている」と思っているのに、実は「わかっていない」というものを考える。

例を挙げるとわかりやすい。「寝殿造にトイレはあったか？」と問うと、「それはあったでしょう」と言う。「実はなかったのだ」というと、「ウソッ」と言う。

歴史にも常識と思っていることが実は非常識であったことがたくさんあることがあって驚く。何しろ歴史の99.9%は仮説だからである。

学習するということは固定観念がこわれていくことでもある。

③子どもの意表をつくものを考える

子どもたちの視野にまったく入っていないネタを開発することである。そうすれば、必ず驚き、意欲を起し、追究しはじめる。

例えば「雪国といわれる地域は、日本の国土の何%くらいあるか」というネタなどは、子どもの意表をつく典型的なものである。「地中海は、世界中にいくつがあるか」という問いや「マンゴーは、どんな実のつき方をしているか」なども意表をつく。

「ヒミコはパンツをはいていたか」というネタなどは、笑いとともに調べはじめるネタである。

こういうおもしろい、意表をつくネタを考えるくせをつけることである。

④子どもの目を開くものを考える

前の項によく似ているが、子どもは知っているようで知らない。知らないようで聞きかじっている。そういう状態にゆさぶりをかけ、新しい認識、より深い認識に至らしめるネタを考えることである。

例えば、「日本には富士山がいくつあるでしょうか？」と問いかけると、

「何を言っているんですか。1つにきまっているじゃないか」と怒ったように言う。

そこで、「富士山といわれる山は、日本全国に397個あります」というと、「そんなバカなことはない」と反論する。日本地図に書き込んだものを見せ、北海道に「利尻富士・知床富士・阿寒富士・北見富士・美瑛富士・蝦夷富士」の6つの富士山があることを話すと驚く。外国にも59ある。

「そういえば、なんとか富士とか聞いたことがある」などと言い出し、日本人がいかに「富士山」を好きかに目を開くことができる。

⑤事実を見直さざるを得なくなるものを考える

身のまわりの社会事象は、見ているようで見ていないものである。そこをつくネタを提示すると、子どもは事実を見直すために、いや見たくなって動き出す。

魚の切り身を見ただけで、魚の形や色、住んでいる場所、泳ぎ方、その取り方までわかることを知ると、魚屋へ出かけて本物を見たり、調べたりするようになる。

⑥新鮮な出会いをさせるものを考える

ごみの学習をやっているとき、「君たちの家では、わざわざお金を出してごみを買ってるね。だから、ごみが増えるのだよ」などとゆさぶると、「そんなバカなことはない。ごみなんか買うわけがない」などといいながらも、調べはじめる。見方が新鮮になる。「ごみを買うとはどんなことか」という観点で見直すことになるからである。

大名行列のときは、「下に、下に」とかけ声をかけていたと思っている。テレビやマンガの影響であろう。これに対して、「『下に、下に』とかけ声をかけてよかったのは、将軍と御三家だけです。他の大名たちは、どんなかけ声をかけたでしょう？」と問いかけると、「へえー」と驚いてしまう。

⑦大事なところをわざとぬいた資料をつくる

グラフを提示するとき、最も大事なところ、どうしても見せたいところを、わざとぬいた資料をつくる。こうすれば、いやでも気づき、印象に残る。

絵などでも、わざと大事なところを書かないでおく。

こういうことができるから、写真より絵の方が有効なことがある。

⑧子どもが体当たりして追究できるものを考える

子どもたちが、手でさわりながら調べたり、足をつかってあちこち調べてまわることを楽しめるネタを考えることである。「1軒の店がよく売れるか、商店街のように店が集まっている方がよく売れるか」などは、子どもたちが体当たりして調べるのによいネタである。

⑨子どもの生活や生き方と深く結びついているものを考える

子どもの生活と結びつかないものは理解しにくい。トイレや水のように生活に直結しているものは、体験を通して理解できるし、子どもの考え方や生き方とも深くかかわってくるので価値が大きい。歴史上の人物の生き方を追究するネタ、例えば「一寸法師」のようなものを考え、これから信長・秀吉・家康などの生き方を追究させるように導くのである。

3 1時間で学力をつけるために——教師に必要な心得

本書は、1つの教材（ネタ）を1時間ないし3時間位で学ぶように構成している。いうならば、1つのネタで、1時間分の学力をつけなければ授業をする意味がないのである。

毎時間、真剣勝負できるネタを提示しているので、これで学力をつけてほしい。そして、生活化をはかり、「実力」になるよう発展させてほし

いのである。

(1) 授業をきっちり行うこと

「この程度の授業ならばくでもできます」と若い教師に言われたことがある。1時間できてもダメなのである。毎時間、「ある一定以上の授業」を継続できることがポイントである。なぜなら「授業は布石の連続」であるからだ。

「授業とは何か」で示したことを毎時間きっちり行うことが何よりも大切なことである。

授業はスイカである。単元の一番おいしいところから切り込むと「もっと食べたい」と言って、おいしくないところもつい食べてしまうのである。

(2) 教材研究をきっちりする

常日頃から教材研究をするくせをつけ、おもしろい教材（ネタ）を見つけることである。それを毎時間提示すれば、子どもは真剣に追究し、学力がつく。

この手助けをするのが本書である。何しろ今の教師・学校は忙しすぎる。教材研究する暇がない。しかし、読むくらいはしっかり読んで、教材・ネタを使ってほしい。そうしないと力はつかない。

沖縄で、「マンゴーは、どんな格好でなっていますか」と尋ねてみたが、わかる人はほんのわずかであった。しかし、これを契機にして、いろいろな果物の実のつき方を追究するようになったのである。応用がきくものが学力として質が高い。

(3) 指導法の研究をする

「授業とは何か」の表に、6つの技術を精選して提示している。これを日々の授業でみがいていくのである。

特に「子どもの反応を集約・焦点化する」ことがむずかしいので、気をつけて指導していく。すると、しだいに上手になり、子どもたちも協

力するようになってくる。

平成24年度から使う中学の社会科教科書を見て驚いた。小学校に負けないくらい「学習方法」を重視しているのである。教えるだけでは受け身で学力がつかない。子どもが自ら学ぼうとすることが大切なことに、中学も気づいたのであろう。

子どもに「いかに意欲的に学ばせるか」ということが、これからの授業のポイントである。

(4) 教科書を見直す

中学校の教科書が変わってきていることを述べたが、小学校は以前から子どもが学びやすいように、「はてな？」を発見できるように、「調べることができるように」工夫がなされている。

教師の読み取る力によって、教科書は深い内容を表したり、浅い内容を表したりする。

わたしが今、先生方に紹介しているのは、「教科書の中に、ハイテク技術がちりばめられているので、これを見つけて子どもをゆさぶると、子どもの教科書を見る目が変わり、学習意欲が出てきて、学力もつく」ということである。

例えば、官営工場の富岡製糸場（明治5年）は、世界一のハイテク技術を備え、それを404名の女工に指導したのである。日本の養蚕技術書『養蚕秘録』（江戸中期）は、幕末にフランス語に翻訳されるほど完成度が高く、まさに世界一のハイテク技術であったのである。

ただ、教科書にはこんな言葉では書いていない。それをしっかり読み取るのである。これが楽しいことこの上なしである。

(5) 「指導する」ということを意識する

①見えない（わからない）→見える（わかる）

このように子どもを変容させることが、指導するということの第一である。習得すべきことを習得させ、活用すべきことを活用させて、探究・

追究へ発展させることである。

②多様な学び方を体得させる

3年生の子どもが、三浦半島のみかん作りを調べようとしたが資料がない。そこで、愛媛や和歌山のみかん作りの本を応用して調べた。3年にしてこんなことができるのである。

5年生で地下資源は足りているか余っているか調べようとしているとき、1人の子どもが「貿易」の本で調べていた。「ちがうんじゃないの?」と言ったら、子どもいわく、「足りなければ輸入しているはずだし、余っていれば輸出しているはず。だから貿易から調べた方がわかりやすい」と言ったのである。

私はこの調べ方に驚いて、みんなを集めて紹介した。これで調べ方が変わってきた。

③学習意欲を引き出す

教育の究極の目的は、学習意欲を引き出すことではないだろうか。意欲さえあればどんな努力も、工夫も、挑戦もする。

意欲を引き出すには、何といてもおもしろい教材（ネタ）が必要なのである。

本書では、「指導する」ということにも重点をおいて各項目でなるべく詳しく述べている。これをもとにして工夫して指導し、意欲・やる気を引き出してほしい。

以上の5項目を毎時間意識して継続的に指導すれば、必ず1時間に1時間分以上の学力がつくはずである。これは、私を実証済であることを申し添えておきたい。

単元 → わたしたちの市

1 電柱に「戸籍」があるって本当？

要点 日本中の正式な電柱には、必ず「用賀1. 72」というように、番号がついている。これは電柱の戸籍である。つまり、その地域に家ができて、電気がつけられたしなのである。この番号をたどっていくと、町の開発された順序がわかる。「用賀1」というのは「用賀1丁目」ということで「72」というのは1丁目で72番目に建てられた電柱であることを表す。「1」が一番早く開発された所で、「用賀1丁目1番地1号」に「用賀1 1」という番号がついているとは限らない。町の区画の方が後からできたからである。この電柱の番号を調べ、地図に書いていくと、どういう順序で町が開発されていったかがわかる。

授業の流れ

1 今日散歩に出かけましょう。……活動

こう言って、子どもたちを誘い出す。子どもたちは大喜びである。

歩きながら、何気なく電柱の所で立ち止まり、じつと電柱を見る。子どもたちはどうしたのかと不思議に思い、話しかけてくる。

・先生、何見ているの？
・電柱は？面白い？

教師の指導技術を明示

子どもの発言

情報 「弁当屋」以外でも応用できる

2軒の弁当屋から、街の特色を見事にとらえている典型的な社会科授業である。モデルにして、他のものをあてはめると、どこでも使える典型的な事例になる。教材はどこにでもあるので応用してほしい。2軒の農家と比べる。2軒の漁家と比べるといったことに応用できる。

関連する情報

項目は、単元ごとにいくつかの教材（ネタ）があります。

はじめに【要点】を読み、大まかな内容をつかんでから【授業の流れ】で順序を頭に入れて授業を展開してください。

【授業の流れ】は、教師の指導を中心として、授業をどのように進めていけばよいかかわかるように構成してあります。また、具体的な発問や提示内容だけでなく、その指導技術の種類を（提示）（発問）（指示）（説明）（確認）（ゆさぶり）などとして明示しています。

実践して子どもから挙がった発言は、原則として右側に寄せ、読者が授業を進める上で子どもたち反応の参考となるようにしています。

さらに【情報】として、その項目に関する知識を増やすための材料を添えました。

資料も適宜、コピーして使えるようにしてあり、すぐに授業に臨めます。

「材料七分に腕三分」。七分の材料を用意しました。三分の腕を存分に発揮してユニークな、おもしろい実践を展開してください。

Ⅱ

3年生の授業

わたしたちの市
生産や販売のしごと
火事を防ぐ
くらしを守る

1 電柱に「戸籍」があるって本当？

要点

日本中の正式な電柱には、必ず「用賀1. 72」というように、番号がついている。これは電柱の戸籍である。つまり、その地域に家ができて、電気をつけられたしるしなのである。この番号をたどっていくと、町の開発された順序がわかる。「用賀1」というのは「用賀1丁目」ということで「72」というのは1丁目で72番目に建てられた電柱であることを表す。「1」が一番早く開発された所で、「用賀1丁目1番地1号」に「用賀1 1」という番号がついているとは限らない。町の区画の方が後からできたからである。この電柱の番号を調べ、地図に書いていくと、どういう順序で町が開発されていったかがわかる。

授業の流れ

① 今日は散歩に出かけましょう。……活動

こう言って、子どもたちを誘い出す。子どもたちは大喜びである。

歩きながら、何気なく電柱の所で立ち止まり、じっと電柱を見る。子どもたちはどうしたのかと不思議に思い、話しかけてくる。

- ・先生、何見ているの？
- ・電柱見て面白い？

② 電柱のこの番号は何かな、と見ているのだよ。……ゆさぶり

- ・何の番号だろう？
- ・「用賀1. 15」と書いてある。
- ・次の電柱を見てみよう。

③ 次の電柱との間は何メートルかな。……発問

- ・えっ？ 距離が決まっているの？

④ 電柱と電柱の間は20メートルと決まっているのです。それで距離がわかるよ。……確認

- ・この電柱「用賀1. 16」と書いてあるよ。
- ・次は17、18と続いているかな？



こうして、電柱の番号調べに夢中になる。これがねらいである。子どもたちは、走って先へ行く。

- ・先生、早く来て！「19番」見つけたよ。
- ・こっちは「20」だよ。

こうして、番号調べが続いていく。体で調べるのが得意な3年生だから、もってこいの活動である。

やがて道が行き止まりになり、左右にT字路となっている。突然、番号が変わる。

- ・あれっ、71だよ。
- ・突然、番号がとんでいるよ。

⑤ さっき歩いた通りは「15～20」だったね。この通りは「71」から始まっているね。次は何番かな。…… 発問

- ・72。
- ・73。

ここで、「なぜ突然、番号が変わっているのだろう」とゆさぶりをかける。いくつかの当てずっぽうの中から「電柱ができた順番ではないか」という答えが出てくればしめたものである。

⑥ 電柱ができたということは——。…… 誘い発問

- ・家ができたということ。
- ・町ができた？

⑦ 電柱の番号は、町、家ができた順番を表しています。番号を調べて地図に書いてみよう。面白い地図ができるよ。

…… 説明・指示

- ・やろう！ やろう！
- ・面白そう。
- ・番号が突然かわっているから面白い！

こうして番号を調べ、白地図に記入していく。これを見ると、どんな順番で家ができて、町ができていったかがわかる。これこそ、本当の社会科らしい「町たんけん」である。しかも、番号は全国共通で、その地域ごとについている。よその町へ行っても、つい電柱に目がいく。これは、子どもも同じで、応用力がついていく。地図も必然的に必要になるので、自然に使うことになる。

★この自然さが必要だ。

2 通りにはどんな違いがあるか？

要点

学校のまわりにある大きな道について考えさせる。わかりやすくするために、特色の違いが大きい2つの道を比べさせる。例えば東京都・文京区では春日通りは台地にあり、地下鉄の駅やバスの車庫などもあって交通の便がよく、人通りも多い。店もレストランやコーヒーショップなどが多い。銀行や郵便局もあり、サラリーマンや学生の街という感じである。これに対して千川通りはズバリ、印刷・製本工場の街である。大小あわせて790もの印刷関連工場がある。そこで働く人たちのために、小さな食堂があちこちにある。また、病院がいくつもあるのが特徴である。千川通りは昔、洪水が多かったために土地の値段が安かったという。ここに工場が集まった1つの理由である。



授業の流れ

① 春日通りと千川通りは、どんな違いがあると思いますか。

……… 発問

- ・春日通りには地下鉄の駅があるけど、千川通りにはない。
- ・春日通りの方が人通りが多い。

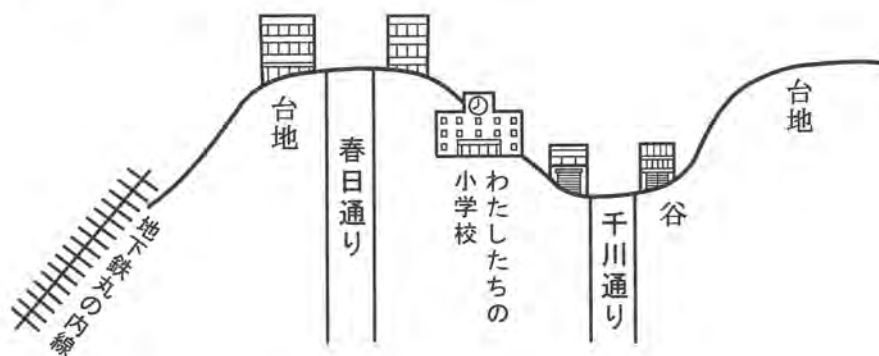
普段あまり使わない通りがあると、比較ができない。

② 予想をたてて「2つの通りがどう違うか」見に行きましょう。

……… 活動

先に予想を立てて考えさせることで、現場での見方が変わってくる。

高低差を表した通りの図



③ 2つの通りには、どんな違いがありましたか。…… 発問

問いかけ、違いを明らかにし、見方を鍛える。

- ・春日通り——千川通りより高い所にあった。千川通りの店より明るい店が多く、客も多かった。バスや乗用車が多く、トラックは少なかった。 など
- ・千川通り——工場がこんなにたくさんあるとは思わなかった。ほとんどが、印刷・製本工場だった。トラックが多かった。小さい食堂がたくさんあった。 など

こうして、2つの通りの性格が大きく違っていることがわかってくる。

3 弁当屋から街の違いが見えるか？

要点

通りの違いを、まったく別の方法で発見させる。それは、それぞれの通りにある「弁当屋」の比較である。弁当屋の違いから、街の違い、通りの違いをつかませようというのである。2で扱った春日通りは台地にあり、千川通りは谷にある。谷になっている所に川があり（千川）これを「暗渠」にしているため、川があることはわからない。春日通りには、学生やサラリーマンが買う弁当屋がある。これをA店とする。千川通りは工場街なので、労働者が多く買う弁当屋がある。これをB店とする。この弁当屋を比較するだけで、街や通りの違いがわかるすてきなネタである。ただし、A店はなくなった。街の改造のためである。

授業の流れ

- ① A店、B店2つの弁当屋の写真を見せながら「これは、それぞれどこにある店ですか」と問う。

……… 提示・発問

- ・ えっ？ どこにあるんだ？
- ・ A店は、駅前にある弁当屋です。
- ・ B店は、千川通りにある弁当屋です。
- ・ A店の弁当は、駅前通りらしい弁当です。
- ・ B店の弁当は大きいです。

- ② 右のような地図を提示し、A店とB店の場所を示す。

……… 提示



- ・ A店は春日通りの駅前です。
- ・ B店は学校の下あたりです。見たことがあります。
- ・ B店には、人が並んでいました。
- ・ 工場で働く人のような感じでした。

③ A店とB店は、どんな違いがありますか。…… 発問

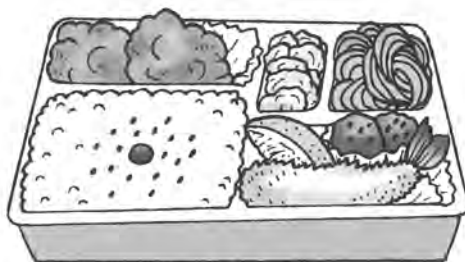
- ・A店の写真を見ると、女性の客が多い。
- ・B店は男性の客が多い。だからB店の弁当は大きいのではないか。
- ・A店は女性の客が多いから弁当が小さくて安いのではないか。

④ ここで本物の弁当を提示する。…… 提示

- ・わっ、本物だ！
- ・おいしそうだ！



「A店」の弁当



「B店」の弁当

「よく聞いてください。A店の弁当は504円、B店の弁当は500円です」

- ・値段はほとんど同じだよ
- ・大きさが違うのに、値段が同じくらいなんだ！

さらに営業時間は、「A店は9時30分から20時、B店は朝4時30分から13時30分」であると説明する。すると時間の違いに注目する子どもが出てくる。

⑤ お客さんが何時頃多いか考えてごらん。…… 指示

A店の客は？

- ・学生、女性。
- ・会社員。
- ・通りすがりの人。

B店の客は？

- ・工場で働く人。
- ・なじみの客が多いのでは。
- ・工場が多いから、働く人は弁当が大きくなってはお腹がへる。
- ・朝の4時30分というのは、朝ご飯を食べる人でしょう。
- ・13時30分までというのは、昼の弁当を売ったら終わりということ。
- ・B店は評判になっているようです。
- ・知っているの？
- ・知ってる、聞いたもん。

⑥ 2軒の弁当屋の弁当が違うのはなぜでしょう。…… 発問

ここで、弁当の中身が違うことにも気づかせる。

- ・客が違うからです。
- ・会社員（A店）と工場で働く人（B店）。

よく見つけましたね。結局、2軒の弁当屋は、客に合わせて店を開けているということですか。

★実際に見に行ったら、違いをはっきりつかんでください。

情報 「弁当屋」以外でも応用できる

2軒の弁当屋から、街の特色を見事にとらえている典型的な社会科授業である。モデルにして、他のものをあてはめると、どこでも使える典型的な事例になる。教材はどこにでもあるので応用してほしい。2軒の農家と比べる、2軒の漁家と比べるといったことに応用できる。

地図はばらしてつくる!

要点

3年生では、「町たんけん」をすると、それをもとに地図をつくる。その地図は、最初からガムテープなどでくっつけ、きれいな色を塗って、廊下などに展示している。こういう地図を見るたびに、苦々しい気分になる。子どもがつくったのではなく、見栄えがするように教師がつくって「こんな学習をしました」と見せているようなものだからである。3年生の地図は、例えば、模造紙9枚ならばそれを並べて、主な道路、川、鉄道くらいを書き込んで、それをばらして、それぞれを子どもに作業させるのである。電柱の番号を書き込んだり、店のある所を書き込んだりし、それを床に並べて「地域による様子の違い」をつかませ、授業が終わったら重ねておくのである。決して最初からくっけないのがコツである。

授業の流れ

① グループごとに地図をつくりなさい。……活動

町めぐりをしながら「第1グループは1の範囲を地図にしなさい。第2グループは2の範囲を地図にしなさい……」と指示して、9分割した模造紙を1枚ずつ渡す。

★このとき、学校、大通り、川、地下鉄くらいを書き込んで渡す。そしてあとは地図のように描かせる。

情報 地図のドッキング

わたしが指導したときは、何も決めないで自由にグループごとに地図を描かせた。そして、できあがったとき「では、地図のドッキングをします」と告げた。子どもたちは「それはダメだ。方向も縮尺も、書く内容も決めていないからドッキングできません」と言った。「では、何を決めたらよいか」と考えさせ「学校、大通り、川、地下鉄くらいを先生が書いてください」ということになった。それを書き込んだものをバラバラにして配布し、地図を描かせた。

子どもたちは、大ざっぱに決められたことをもとに地図を描く。楽しんで描く。

② さあ、できあがった地図を並べてみましょう。……活動

1から9の数字は、説明の都合でつけたもので、本物の地図には何もつけない。

これが大変である。なかなか並ばない。学習のたびごとに2人ずつくらいで並べさせると地形が頭に入る。毎時間、集めては並べる。これが学習なのである。

③ どこにどんなものが多いですか。……発問

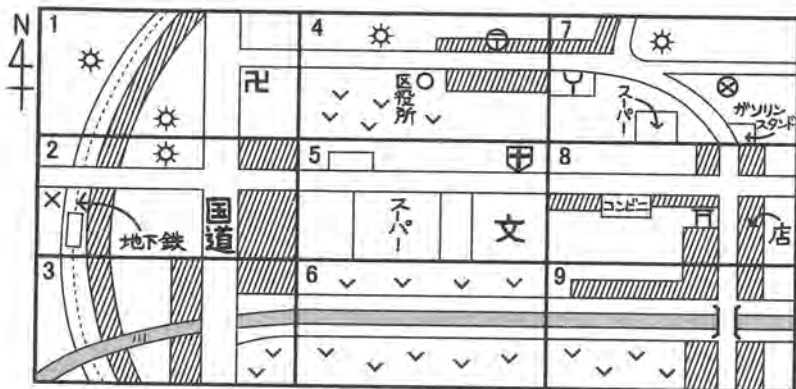
9枚の地図をみながら、気づいたことを発表させる。

- ・学校の東側に店が多いです。
- ・学校の南側に畑が多いです。
- ・畑は北の方にもあります。
- ・工場は、学校の北西と北と北東の方にあります。
- ・駅の近くは、店が並んでいます。
- ・学校の北の方に、区役所、郵便局、消防署、警察署など、役所があります。
- ・スーパーが2つ、コンビニが2つあります。

④ 「町のようすの違い」というか「特色」がわかりましたね。

……確認

地図にまとめることで、いろんなものがあることがわかる。



そこで、次に職種に目を向けさせる。

- ⑤ 次は店の学習をします。どの地図を使ったらいいですか。

…… 発問

|・1, 2, 3と7, 8, 9の地図です。

- ⑥ 工場の学習をするときは、どの地図を使ったらよいですか。

…… 発問

|・1, 2, 4, 7

- ⑦ 役所の仕事を調べるには、どの地図を使いますか。…… 発問

|・4番
|・7番

- ⑧ 畑の仕事を調べるには、どの地図を使いますか。…… 発問

|・4番
|・6番
|・9番

- ⑨ 昔の学習をするには、どの地図を使いますか。…… 発問

|・昔のものがあるのは神社とか
|・寺とか

- ⑩ 古いものは8, 1の所にあるかもしれませんが、全部の地図にあるかもしれません。全部の地図に書き込んでいきましょう。…… 確認

情報 必要な地図だけ必要なときに使う

不要なものは出す必要はない。必要な地図だけ提示して調べて書き込む。全部できあがって、3年生の学習が終わったら貼り合わせてもよいが、最後にはボロボロになっているのが普通である。